

# ちば経済フラッシュ

「ちば経済フラッシュ」は3、6、9、12月号に掲載します

## 千葉県経済の動き

県内景気は、上向いてきているが回復の足どりは弱く、経済活動の水準もなお低い。生産は、業種によりばらつきがあるが、輸出の増加などから上向きつつある。個人消費も政府の経済対策に支えられた一部商品（ハイブリッド車、薄型テレビなど）の売れ行きは堅調で、観光の客足も戻りつつあるが、雇用情勢の一時悪化、家計収入の減少などから低迷している先が多い。先行きについては、不透明な部分が多いことから、むしろ景気の腰折れを懸念する声が少くない。

千葉経済センターの「千葉県企業経営動向調査」（09年10月実施）によると、09年7～9月期の業況判断BSI（全産業）は▲8・8（前回比+5・3）と2期連続で改善した。もつとも、水準は11期連続で「悪化超」となお低い。

個人消費は観光面で回復の動きが見られているが、小売業界（特に百貨店・スーパー等）を中心に低迷している。県内小売業界を見ると、一部では政府の経済対策（エコカー減税、エコポイントの導入）効果が現れているものの、消費者の低価格志向の高まりから客単価の下落が続いているため、全体の売り上げは落ち込んでいる。自動車販売業界では、エコカー減税によってハイブリッド車の予約が好調で、伸び率を底上げしている。もつとも、エコカー減税は10年3月末までの時限措置であるため、「需要の先食い」として、先行きを心配する声も聞かれる。

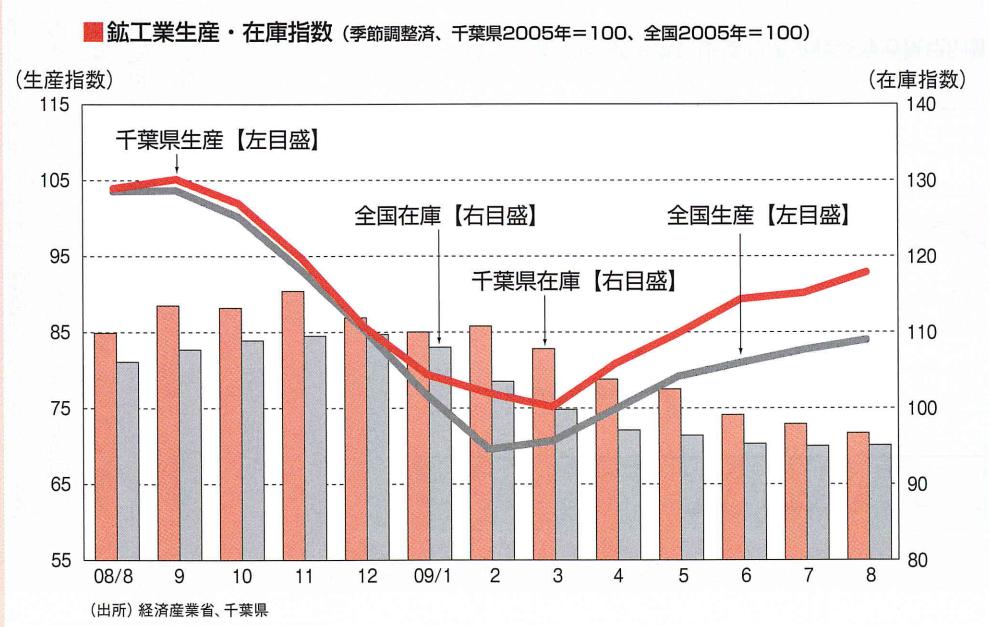
県内新設住宅着工戸数（09年7～9月期）は、金融危機の影響による不動産市況の悪化などを背景に、前年同期比▲36・0%と大幅に減少した。

千葉県鉱工業生産指数（季調値）は、09年4月～80・8～5月～84・8～6月～89・3～7月～90・1と4か月連続で前月を上回った。

09年度設備投資計画額（全産業ベース、09年10月調査）は08年度実績比▲21・6%の大額減少となつた。企業の設備投資姿勢が慎重化しており、製造業が同▲29・0%、非製造業も同▲17・4%減少した（9月末時点の09年度設備投資計画額のうち投資額がゼロの先の割合は全体の58・9%）。一方、期初計画比では+1・7%の小幅上方修正となつた。雇用情勢は、一段と悪化している。千葉県の有効求人倍率（季調値）は、09年7月にはここ9年間で最低水準の0・40倍まで落ち込み、8月も同水準のままで推移し、5月以降は全国水準を下回っている。8月の正社員有効求人倍率は0・22倍（前年同月比▲0・24ポイント）と大幅に落ち込み過去最低となつた。

（吉川）

## ■概況



## ■消費関連

県内の個人消費動向を見ると、一部では政府の経済対策（エコカー減税、エコポイントの導入）の効果が現れているものの、雇用・賃金情勢が一段と厳しさを増しており、全体としては低迷している。百貨店では、消費者の低価格志向の高まりから、客単価が下落し、売り上げも落ち込んでいる。

7～9月期の消費関連業種の業況判断BSIを見ると、小売（▲5・2）とサービス（▲17・0）は依然「悪化」超が続いているが、ホテル・旅館（8・4）では「好転」超となつた。南房総地域の観光地を見ると、東京湾アクアラインの通行料金を含めた高速道路料金の一斉値下げの効果により、自動車通行台数が増加し、一部レジャー施設やみやげ店では、客数や売り上げが伸びている。なかには、8月の入場者数が開業以来の単月最高を記録した施設もあつた。もつとも、来県しやすくなつたことで、日帰り客数の伸びに比べて宿泊者数の伸びは小さい。

最近の主な業種別の動向は次のとおり。

県内百貨店の7～9月期の売り上げは前年同期比▲9・1%減少した。月別には、7月…

前年同月比▲10・5%→8月…同▲9・2%↓9月…同▲7・2%と各月とも前年を大幅に下回った。

部門別に見ると、不要不急の商品である高額品（宝飾、絵画等）の売れ行きは依然鈍く、回復には程遠い状態。また、衣料品も、ファ

ストファッショング（ユニクロなど最新の流行

を採り入れながら低価格に抑えた衣料品を短いサイクルで生産・販売するブランド）に客足を奪われ、低调に推移している。こうした中、NB（ナショナルブランド）の約6割という新価格水準で、良質かつデザイン性の高いPB（プライベートブランド）商品の衣料品を導入する店舗も見られた。

先行きについても、短期的な回復は見込めないとして、厳しく見ていく先が多い。

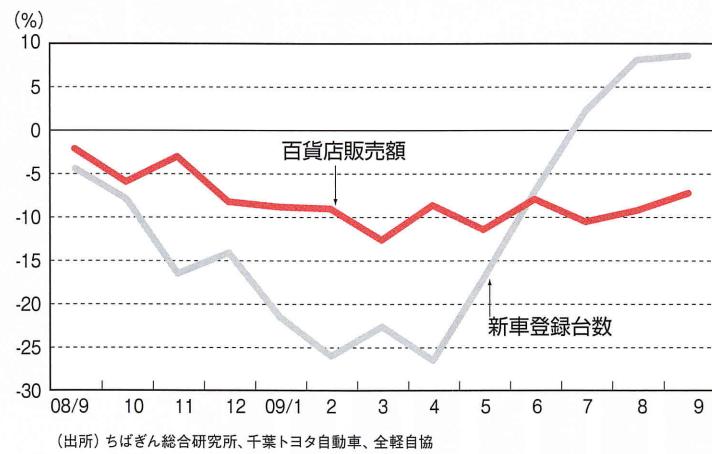
イブリッド車が9月の販売台数の3分の1を占めたとのこと。もつとも、エコカー減税は、10年3月末までの时限措置であるため、「需要の先食い」として、先行きを心配する声も聞かれる。（吉川）

### ●自動車販売

7～9月期の県内の乗用車新車登録台数は、

前年同期比6・1%増加した。月別には7月…前年同月比+2・3%→8月…同+8・1%→9月…同+8・6%と、リーマン・ショック以前の水準に戻つた。これは、エコカー減税の効果でハイブリッド車の売れ行きがきわめて好調であり、全体の伸び率を底上げしているため。県内大手ディーラーでは、ハ

■千葉県内百貨店販売額および新車登録台数伸び率（対前年同月比）



## ■住宅・建設

県内の09年7～9月期の新設住宅着工戸数は、金融危機の影響による不動産市況の悪化などを背景に、前年同期比▲36.0%減少した。なかでも、購入意欲の冷え込みで新規供給を抑制している分譲マンションの着工戸数は、8月にわずか4戸となるなど、同▲82.7%減少と低迷している。

経営体力のある大手デベロッパーなどで用地取得を再開しているが、好立地の物件を厳選しているため、不動産市場全体を牽引するまでには至っていない。

また、7～9月期の県内における公共工事請負額は、国や県で補正予算による景気対策として学校耐震工事等の公共工事の前倒し発注を実施していることにより、前年同期比+10.5%増加と2四半期連続で前年を上回つ

た。しかしながら、景気悪化により、企業の設備投資やマンションといった民間建設需要は低迷しており、全体の建設需要が縮小する中で少ない受注を奪い合う形の競合が一段と激化している。

(福田)

合(北部・西部・中央)の7～9月期の出荷量は、前年同期比▲32.8%減少と、10四半期連続で前年を下回つた。

公共工事向けの出荷が約3割と、他の地区に比べ高い中央協組などでは、公共事業の前倒し執行による出荷増が一部の案件に見られたが、民間需要の大幅な落ち込みを補うまでには至らなかつた。

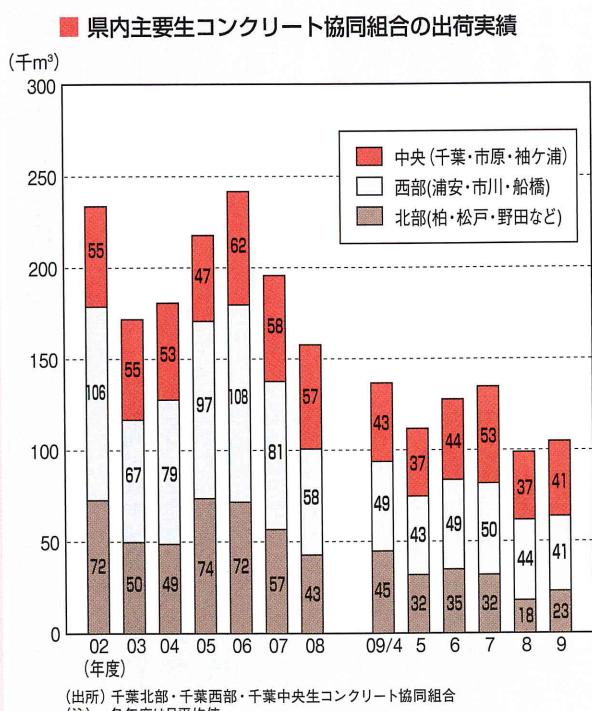
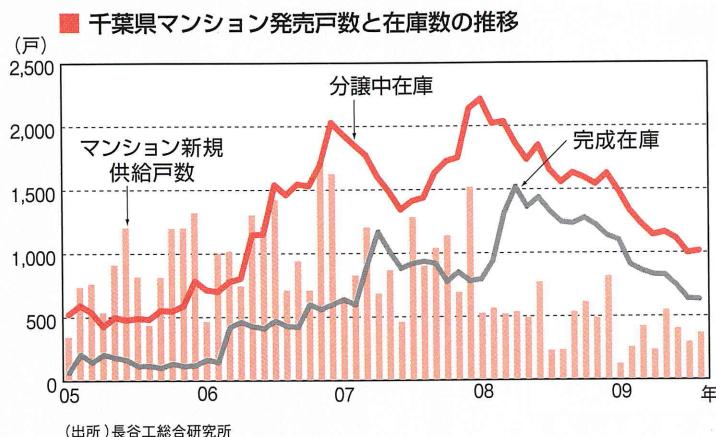
各協同組合の出荷量は、直近のピークであった05～06年度の水準から

半減している。生コンクリート販売は、利益率が低いため、出荷の落ち込みが収益の減少に直結しており、赤字操業を余儀なくされている業者が一段と増加している。

05～06年度の高水準の出荷を支えたマンション向けの需要は、雇用・所得環境の悪化による購入意欲の減退などから、中長期的に低迷が続く公算が強くなっている。また、企業収益の悪化により建設設備投資の抑制傾向が強まっていることもあり、民間向けの生コンクリート需要は、厳しい環境が継続すると見られる。

(福田)

## ■建材

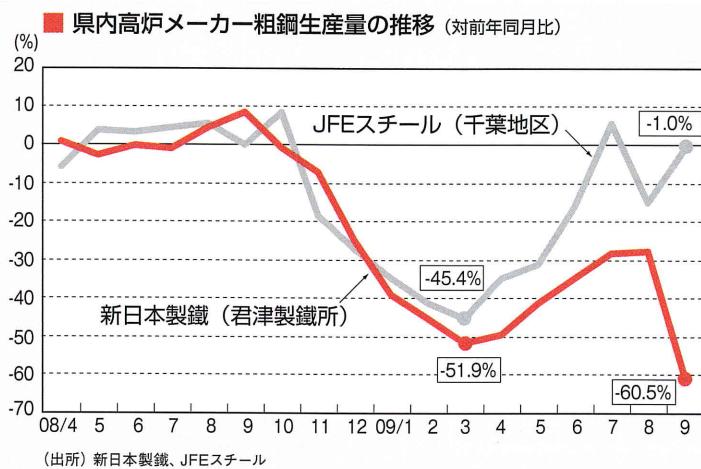


## ■ 鉄鋼

7～9月期の県内高炉メーカー2社（新日本製鐵、JFEスチール）の粗鋼生産量は、新日本製鐵君津製鐵所で8月28日に発生した、コークス流出事故の影響により、 $164.4\text{万t}$ 、前年同期比▲39.0%となつた。

国内高炉メーカー全体では、中國を中心とした東アジア向けの輸出が好調なうえ、自動車向けなどで国内製造業も回復基調に入り、フル操業が続いていた前年の8割強の水準にまで回復している。今後も、建築向けなどでは厳しさが継続するが、輸出主導で回復傾向が続く見通し。

県内鉄鋼・非鉄金属（中小企業が中心）では、鋼材流通各社で在庫調整が進んでいることなどが、09年3～4月を底として出荷量は増加傾向にあるが、千葉県における8月の普通鋼材受注が前年同月比▲25.5%となるなど、例年ならば建設需要



期にあたる9月以降も回復は緩慢なものにとどまる見通し。出荷先の業界によって回復水準は大きく異なり、自動車向けなど景気対策効果により6～7割の操業度にまで回復した企業もあれば、建設機械では1～2割の低操業が続いている先も見られている。

（福田）

は、中国向けの需要回復や需要家の在庫調整が3月末で一巡したことなどにより、エチレン減産を緩和している。エチレンプラントの稼働率を見ると（図表を参考照）、2月は69.7%まで落ち込んだが、その後上昇し、6月は95.1%まで回復した。そのため、石油・化学の7～9月期の収益BSIは▲6.8（前回比+16.3）と改善した。現状、内需向けの回復は遅れているが、

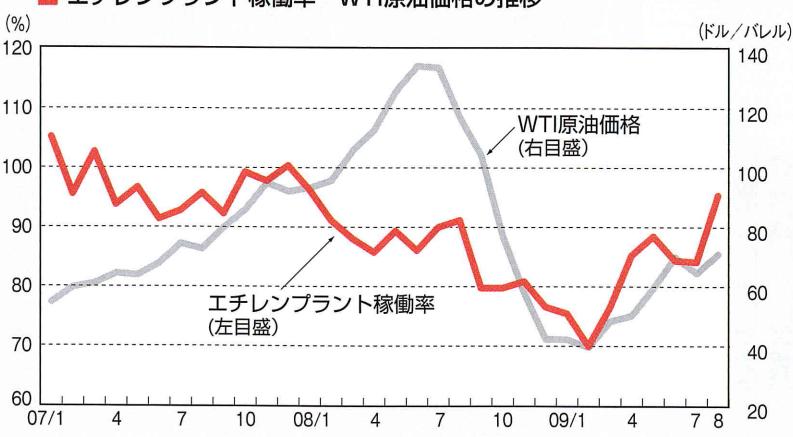
## ■ 石油・化学

WTI原油価格が半年ぶりに高値圏まで戻したため、石化製品の原料となるナフサは、7～9月期の価格（国産）が4万1000円／㎘（4～6月期比+23.1%）と上昇する見込み。

大手石油化学各社は、中国向けの需要回復や需要家の在庫調整が3月末で一巡したことなどにより、エチレン減産を緩和している。エチレンプラントの稼働率を見ると（図表を参考照）、2月は69.7%まで落ち込んだが、その後上昇し、6月は95.1%まで回復した。そのため、石油・化学の7～9月期の収益BSIは▲6.8（前回比+16.3）と改善した。現状、内需向けの回復は遅れているが、

（松本）

### ■ エチレンプラント稼働率・WTI原油価格の推移



## ■ 食料品

県内食料品メーカーの7～9月期の収益BSIは0・0（前回比+1・4）と若干改善した。

昨年想定外の値上がりを続けた原料価格は、09年入り以降安定しており、国産鶏肉では08年夏ごろのピーク時と比べ4割以上も下落している。また、消費者の節約意向を反映した内食化の進展により、総菜や簡単な調理済み食品など「中食」市場向け商品の売れ行きは良い。食用油業界では、業務用の落ち込みを一般家庭向けでカバーしている先もある。このほか、例年夏場は食欲が落ちる時期であるため需要が落ち込むが、今年は涼しく、影響が少なかった。

もつとも、先行きについて

9月期の収益BSIは▲5・9（実績比▲5・9）と悪化を見込んでいる。（古川）

## ■ 漁業

銚子漁港の09年7～9月期の水揚げ状況を見ると、数量（2万9381t・前年同期比▲50・9%）は3四半期連続、金額（40・7億円・同▲44・3%）も4四半期連続で前年を割った。主要魚種では、サバが数量（1万1462t・同▲74・4%）、金額（8・0億円・同▲79・7%）ともに前年を大幅に下回った。また、アジも数量（1092t・同▲23・7%）とも前年比減少しした。一方、イワシは、入梅イワシ（もつとも脂が乗つておいしいとされる梅雨時のマイワシ）の水揚げが好調で、数量（1万4044t・同2・7倍）、金額（16・4億円・同3・5倍）とも前年を大幅に上回った。

昨年の夏場は、異例といえるほどのサ

バの大量水揚げで、銚子漁港は沸いたが、今年はかんばしくなく、イワシがその代役を担う形となっている。イワシは、ほとんどが生鮮用に出荷されたため、魚価が堅調に推移した（08年7～9月期・89円/kg→09年7～9月期・117円/kg）。（古川）

## ■ 農業

7～8月の千葉県産主要野菜1品目（カブ・ニンジン・ダイコン・ホウレンソウ・キヤベツ・キュウリ・カブ・ゴボウ）の東京中央卸売市場への出荷量は、7月以降の長雨による日照不足などの影響を受けて、6585t（前年同期比▲20・2%）と前年を下回った。もつとも、千葉県は7～8月が端境期にあたり、この時期の出荷量は年間出荷量の1割にも満たないほど少ないため、天候不順の影響は全国に比べ限定的であった。

スイカ、ナシ、モモなど果実の生育は順調で、出荷量は平年並み。しかししながら、景気悪化に伴う消費者の低価格志向の高まりのほか、「嗜好品は買わない」という消費者意識などから、果実全体の単価が下落した。

日本一の生産量を誇る日本ナシは、白井市など一部で黒星病（ナシの表面に黒い斑点ができる、商品価値がなくなる病気）が発生したもの、県産ナシ全体としては大きな影響はなく、代表銘柄「幸水」は、8月の数量が前年同月比+6・7%と前年を上回った。（古川）

## 注目点①

**県内製造業の7～9月期の受注、生産は、前期に比べ上向いてきているが、生産水準は依然低い**

県内製造業の7～9月期の受注、生産は、業種によりばらつきがあるが、政府の景気対策効果や中国向け輸出増加などから、全体としては、前期に比べ上向いてきている。

先行きについても、経済成長が続く中国向けを中心に需要増が期待できるとして、「もう一段強くなる」とか、「悪くとも横ばいで推移し、今よりも落ち込むことはなからう」との見方が多い。

■液晶パネルメーカーでは、中国や東南アジア向けの需要が旺盛なこと、国内向けもエコポイント対象の薄型テレビ用の伸びが良いことながらフル操業状態が続いている。大手メーカーからの発注状況から見て、クリスマスごろまではフル操業状態が続く見通し。

需要は回復している。一方、国内需要は、自動車など回復が進んでいる分野でも前年水準の8割程度にとどまっており、厳しい状態が続いている。

## 注目点②

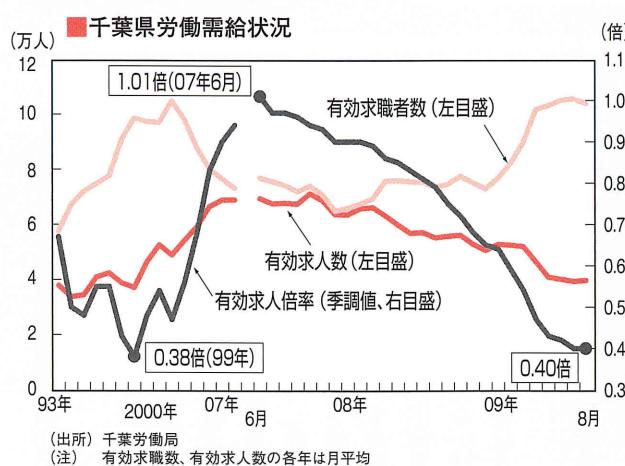
**県内の有効求人倍率は、ここ9年間で最低水準になるなど雇用情勢が一段と悪化**

■県内の有効求人倍率(季調値)は、07年6月に15年ぶりに1・0倍を超えた後は低下傾向が続き、09年7月にはここ9年間で最低水準の0・40倍まで落ち込み、8月も同水準のままで推移し、5月以降は全国水準を下回っている。

特に、08年9月のリーマン・ショック以降、製造業を中心とした受注、生産の大幅減少に伴う業績悪化から、一部企業での正社員の早期退職者募集や非正規社員をほとんどゼロ状態まで削減する先が増えているほか、9月末には大手企業の出先工場閉鎖に伴い500人規模で雇い止めされている。

こうした事情を反映し、10月実施の企業経営動向アンケート調査の雇用BSI(全産業)は▲7・2の「過剰」超と4四半期連続で「過剰」となっている。

なお、各企業では、先行きの景気見通しが不透明として、新規採用を控える傾向が強く、来春卒業予定の高校生に対する新規求人數が前年を50%超下回るなど、雇用情勢は一段と悪化している。



■県内ハローワークAでは、1名の求人に100名超の応募のケースもあるなど完全な買い手市場であるため、実際の就職にはなかなか結びつかない状況。また、雇用の紹介・相談窓口では、混雑する日には待ち時間が2～3時間に及んでいる。